

2018. 3 発行

桑名市男女共同参画情報紙

花みずき



住みやすい桑名市に向かって

男女共同参画ってなに？

男女共同参画社会基本法が1999年6月に公布された。この法律は男女が平等で政治的、経済的、社会的に自由に活動できる事を目的にしている。桑名市も性別に関わらず、誰もが個性と能力を発揮できる社会の実現に向けて、人材育成講座などの取り組みをしている。

2000年の三重県の調査によると「男は仕事、女は家庭」の考え方に対し、48.4%の人が「同感する」、「どちらかといえば同感する」と回答した。さらに、「女性は働きやすいと思うか」という問いに対しては、51.6%の女性が「思わない」と回答した。2015年の調査では、「男は仕事、女は家庭」という考え方に対し、「同感する」、「どちらかといえば同感する」と回答した人は31.8%と減少したが、「女性は働きやすいと思うか」という問いに対して、51.8%の女性は「そう思わない」と回答しており、ほぼ横ばいであった。

女性の社会進出への理解が進まないのはなぜだろうか。この先どのように男女共同参画社会の実現を目指していくべきなのだろうか。

桑名市の進みたい未来、現状を考えて3人にお話を聞きました。

『市役所は旗振り役』



桑名市長 伊藤 徳宇

「市役所は旗振り役」と話す伊藤市長は自身の第二子が生まれると1ヶ月間の育休をとった。妻が産後間もない子を見るため、家を離れられないので、市長は上の子の幼稚園への送り迎えを担当した。

制度はあるが育児休暇を取れない風潮がある。このマインドを変えなければ男女が住みやすい社会の実現は難しいと思い、市役所の長である自ら育休をとった。

伊藤市長は仕事上の能力や才能は男性と女性に差はないと話す。男女の人口が50%ずつで、能力の高い人が同じ割合でいると仮定すると、男性のみの社会では50%の才能と能力は無駄になってしまう。才能と能力でより生産性の高い社会を作り、より働きやすい社会を実現したいと話す。

伊藤市長は、より良い社会を目指して、自身の家庭においてゴミ出しや風呂掃除、洗濯を担当することで家事参画を図り、家庭と仕事のバランスを取っている。

『男女差別は感じていない』

女性は男性を輝かせる立場を務めることが多い。しかし自身でスポットライトの浴びる位置に立った金星堂の取締役会長小笠原さんは、経営者を務めた経歴で差別を感じたことは無かった。女性だから回って来たチャンスもあった。NPO法人でも女性のリーダーが少ないからと理事長の役割を任される事もあった。

「責任感を持って最後までやり遂げるかは母性である。」主婦から経営者になったのだが、家事を片付けるように、目の前の仕事も片付けた。母性である育児を諦めない力は、仕事をやりきる力になり、仕事のスピードは会社の発展に役立った。お弁当を買って子供に食べさせて、会社に戻り仕事をした。「子どもは親



(株)金星堂 代表取締役会長
小笠原 まき子 さん

の一番の理解者。長い時間を過ごすだけが愛情じゃない。」生活のために仕事をするのも愛情だ。

2016年の帝国データバンクの調査対象の民間企業では、女性管理職は平均で6.6%であった。国は、2020年に指導的立場の女性の割合を30%に引き上げる目標を掲げている。

小笠原会長はこれに反対する。数字合わせで人を選ぶのは差別になる。金星堂では女性の社員が約3割で女性役職者も約3割。男女問わず、周りから認められている人を役職に選び、仕事量やコミュニケーション能力、統率力などのバランスが必要と話す。金星堂の女性社員は男性社員に引けを取らず優れた結果を出している。

彼女は自身を「NOと言わない小笠原」と呼んでいる。彼女は頼られれば断らない性格で、社長という役職も同じだった。ハキハキと意見を述べる彼女は、NOと言わない日本人ではない。ではなぜ彼女はNOと言わないのか？「頼られ事は、試され事。」自分がその仕事と役割をできると評価を受けている、それに応えたい一心で、NOは言わないのだ。

金星堂では男女の能力差は無い。女性の社会進出が進み、働く人の男女の割合が半分半分になれば、50%の役職者も女性になるのかもしれない。そうなれば、女性が感じている働きづらさの解消や伊藤市長の話より生産性の高い社会の実現につながり、バランスのとれた社会になるだろう。

『幸せのバランス』



教員
ガレゴス・コートニーさん

ガレゴス・コートニーさんはアメリカ合衆国のユタ州出身。陽和中学校と陵成中学校で英語の補助教員をしている。約1年前に桑名に引っ越してきた。

彼女の家庭は一般的だと話す。父親と母親、11歳離れた異母兄と8歳上の兄の末っ子として育った。彼女の母は日本で言う所のキャリアウーマン。父親よりも収入が多かった。国家公務員の会計士の仕事をしながら家事と育児をした。何より仕事が好きで「仕事の時間がいちばん幸せ」と言っていた。

世界経済フォーラムによると2017年の男女平等ランキングでは144ヶ国中、日本は114位アメリカは49位だった。アメリカでも男女の収入格差は未だ深刻だ。女性の給与の平均額は男性の給与の約8割であり、日本では、厚生労働省によると男性の約7割である。

母はガレゴスさんを産むと短い産休後、すぐに仕事に戻った。朝5時、幼い頃の彼女は保育園に預けられ彼女の母親は仕事に向かった。保育園に着くのは最初か2番目だった。仕事を早く終わらせ、家族と多くの時間過ごすため、早い時間から働いた。

元バンドマンの父は大工の仕事をしていた。父も同じように朝5時ごろ家を出て、夕方5時頃には家に帰ってきた。彼女の毎日の楽しみは、小学校から帰って父と兄たちとSF映画を見る事だった。父はたまに夕食を作ってくれ、子供達の急な夕食のおねだりにも対応してくれた。

好きな仕事を続ける環境があり、仕事でも家庭でも役割を果たす母、それをサポートする父親。コートニー家の幸せのバランス。三重県で働きづらいと感じている女性が5割以上いるのは、このバランスに関係があるのかもしれない。

編 集 後 記

男女共同参画社会基本法が約20年前に公布されました。同じ頃にiモードのサービスが始まり、当時高校生だった私も携帯電話を持ち始めた頃です。多くの人がスマホを片手に歩く時代になりました。

男女平等や長時間労働の是正、働き方改革が叫ばれ、社会も進化しています。しかし、インタビューを通すと、実態は理想とは遠いように私は感じています。

そもそも男女共同参画社会の実現を目指す理由は、「老若男女が住み良い社会を作る」ためです。家庭や個人が生活しやすいバランスで成り立てば良いのです。それをサポートするために女性が社会に進出し活躍できる場所が必要で、男性が家事育児に参画できる時間が必要です。

過労死や男女の格差のない未来のために、政治は、地域は、企業は、私たちは、長く緩やかな時代の流れを少しでも変える時期に立っているのではないのでしょうか。

編集委員 戸頃 知洋

平成30年度 桑名市男女共同参画推進事業スケジュール（予定）

日時	行事
毎月 第2土曜日	女性弁護士法律相談
6月下旬	三重県内男女共同参画連携映画祭
11月中	パープルリボン運動に関する啓発パネルの展示並びに書籍の紹介 中央図書館・長島輪中図書館・ふるさと多度文学館(3館同時開催予定)
随時	人材育成講座・男性講座

※スケジュールは都合により変更する場合がございます。

詳細につきましては、桑名市ホームページ(桑名市男女共同参画で検索)又はメールマガジンをご覧ください。

メールマガジン「男女共同参画情報」のご案内

桑名市では、男女共同参画に関する情報を発信するため、メールマガジンの配信を行っています。桑名市で実施する男女共同参画映画祭をはじめ、人材育成講座、男性講座などの事業の情報に加え、国、県の取り組みなどもこのメールマガジンにて紹介しております。

右QRコード、並びに桑名市ホームページ「便利なオンラインサービス」の「男女共同参画メール配信」からも登録できます。

事業へのご参加並びに皆様の登録をよろしくお願ひします。



発行：桑名市役所 地域コミュニティ課 男女共同参画係

〒511-8601 桑名市中央町2丁目37番地

TEL:0594-24-1413 FAX:0594-24-1735 Eメール:ccollabo@city.kuwana.lg.jp